

7月22日

テーマ：「わたしをためしてみよ」

聖書箇所：マラキ書3章10節

◆今日のみことば

十分の一をことごとく、宝物倉に携えて来て、わたしの家の食物とせよ。こうしてわたしをためしてみよ。――万軍の主は仰せられる――わたしがあなたがたのために、天の窓を開き、あふれるばかりの祝福をあなたがたに注ぐかどうかをためしてみよ。

マラキ書3章10節

◆メッセージ

預言者マラキさんのいた頃は、戦争や飢饉などの大きな苦しみはありませんでした。しかし、人びとは幸せではありませんでした。それは「神さまとの大切な約束」を忘れていたからです。「約束」とは何でしょう？それは、「神さまのおことばに従うなら、いつも神さまが共にいて、祝福をくださる」という、すばらしい約束です。ところが、祭司たちはその約束をちゃんと人びとに教えず、適当に神さまを礼拝していました。それで、ある人は自分がいらないようなものを神さまにささげたり、ある人は「神さまに従わない方が金持ちになれるし、そのために神さまの罰を受けることはない」と言っ、いばっていました。そのようなわけで、神さまからの祝福をいただけないので、みんな、不満でいっぱいだったのです。



そこで、神さまはおっしゃいました。「わたしはあなたがたを愛している。収入の十分の一を礼拝でささげて、天国に宝を積んでごらん。そうすれば、わたしは、天からあふれるほどの祝福をあなたがたにあげよう。わたしの約束を思い出して、ためしてごらん。」

聖書には、信仰の先輩アブラハムさんも、十分の一をささげたことが書かれています。御子イエスさまも、収入の十分の一をささげるようにとおっしゃってお

られます。それは、「持ち物すべては神さまのもの」と考えて、感謝をあらわすことです。十分の一をささげたら、わたしのお金が減ってしまう？損してしまう？いいえ、天地万物を造り、支配しておられる神さまが、ますます豊かに必要なものを与えてくださいます。神さまは約束を必ず守られます。けれども、神さまのおことばを無視しつづけて悪を行う人は、最後に火の裁きを受けなければならないと、警告しておられます。

さて、神さまは、イエスさまの十字架によってあなたの罪を赦してくださるほど、あなたを愛しておられます。苦しいことがない時ほど、神さまのことを忘れて不満でいっぱいになることがありますませんか？神さまは、あなたにも「わたしをためしてごらん」とおっしゃいます。神さまからいただいている恵みを感謝して、心からの礼拝と献金をおささげしましょう。

◆お祈り

「神さま、いつも多くの恵みで満たして下さり感謝します。約束を信じて、神さまにいちばよ良いものをおささげできますように。」

(小平聖書キリスト教会伝道師 大瀧和子)